

令和6年度第2回南箕輪村持続可能な自治会検討委員会会議次第

令和6年8月21日（水）
午後7時から 役場講堂

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 検討補助委員からの意見共有 【会議資料1】
4. 第1回検討委員会ワークショップまとめ【会議資料2】
5. ワークショップ
自治会運営業務の課題整理と解決方法検討・発表 【会議資料3】
6. 今後の検討内容(案) 【会議資料4】
7. 次回の日程
日 時 10月1日(火) 午後7時
場 所 講堂
8. その他
9. 閉会

第1回持続可能な自治会検討委員会 検討補助委員意見共有

自治会に入るとこんなメリットがあるんだよ、の内容で未加入世帯に呼びかける行動が必要、動画を見てこのようにまとめました。

一方で若い世代から見て、自治会に入るデメリットと声はR5年度、一回も出ませんでした。今年度は自治会に入るデメリット、特に南箕輪村に移住して下さった方中心の意見を聞いてみたいです。

現在の検討委員の皆様のご苦勞はすごく理解しています。しかし、ずーっと地域に住んでいる皆様かつ自治会員の皆様の議論が昨年度から続いていて見た目ですと老人ばかりです。

そんな背景もありまして、30歳代の意見、自治会からメリットを言われるが、若い世代はどのようなデメリットを感じているか、未加入の若い世代の意見を聞いてみたいと思いました。南箕輪村を将来担ってくれる若い世代です。老害よりそちらの意見を聞いて尊重したいと思いました。

私が57歳から、あと3年で還暦かぁ。老人になるんだな。老害になる前に色々から身を引こうと考え出し、今年61歳。そろそろ老害が出る頃だなと思い始めましたので上述の感想を持ちました。

しつこいですが、若い人が考えるデメリット、こちらの意見も尊重しながら、双方で軟着陸するのが良いと思います。

組に加入していると必ず何らかの係が回って来ます。私の場合、昨年度は日赤奉仕団でした。家内はデイサービスにお世話になっている状況ですから私がやるしかありません。炎天下の行進は歳も考えずにまた変形性股関節症の身に何かあったら周りに迷惑をお掛けするのでお断りしました。

また炊き出しの訓練も毎日ご飯作りをしているのでお断りしました。今年は回り番で公民館係になりました。納涼祭は机等の準備はしますけれども家内の夕食を作らないといけないので以降のことはお断りしました。

今後予定されている敬老会は準備とお年寄りの接待はやる予定です。よくよく考えて見れば後期高齢者の私は敬老会に招待される側でもありますから複雑な思いがします。これが現実なのです。

組の皆さんに係を免除して貰うも憚られるし組から外れるも考えさせられるしこんな嫌な思いをこれから先死ぬまで続けることでしょう。6年後に組長が回って来るかと思うとまあそれ迄には死んでいるなあと樂觀視しております。村か区の規則で係の免除対象者について規定してもらえたら組から脱会しなくとも現状維持が図られると思い

ます。

今回も組加入者のメリット、デメリットの話題が目立っていたと思います。私自身、若い方の加入率が低いと聞き、羨ましい気持ちにもなる時が正直有ります。神子柴区に加入して5年ほど経ちますが、イベントや係活動を通じて区民の皆さんとの関わりが増えて加入のメリットも感じて来ている日々です。

今年は公民館係となり、区民の球技大会（ボッチャ）に初めて参加しました。係なので参加した。というのが本音ですが、5歳の娘も私達夫婦もとても楽しくて、また来年も参加しよう！と思えるイベントでした。特にお子さんの居る家庭などは、このようなイベントを通して、地域の方との交流の大事さを体感していただきたいと感じました。

悩み事としては、清掃活動などの活動時間が早い事です。朝5時、6時からの活動が多いですが、早くて困っています。7時くらいにして頂けると助かります。

ごみゼロ運動や河川清掃ですが、本当に必要なのでしょうか？河川清掃は事前の草刈りを行っていると思うので、当日はとてもきれいな状態です。正直申しますと、半分ほど散歩です。

ごみゼロ運動についても、目立つゴミはあまり無いです。組全員が出席するほどの必要性を感じません。今後、このような作業を少しでも減らしていく事で組に加入しても負担にならない。時代に合わせて内容も変化している。というイメージを作っていく事が出来るのではないのでしょうか？係をやりながら、更に区民全員参加の作業も有り、負担に感じています。

加入、非加入とで差が無いので有れば、加入者のみに村商品券を配るなど、いかがでしょうか？乳幼児を育てる家庭で有れば、オムツ券でも嬉しいです。何か加入しようと思えるきっかけを作ることも大事だと思いました。

		組織・区民関係			
		役・役員	行事・イベント	運営	区民認識
課題	ワークショップ	役員のなり手担い手不足 役員になる人がいない ・世帯の小規模化 ・共働き世帯の増加 ・単身世帯の増加 ・定年延長65歳→70歳、再雇用が原因 区長のなり手がいない ・仕事が多すぎる ・高齢だと大変 三役の役員のなり手がみつからない。特に代理と区長 区役員選考、三役なり手不足 ・地区における負担軽減(事務等を担う人材の確保ができていない)(予算不足) ・役目の明確化(その他) 地区の役員選出 女性役員の増員化	【行事】 イベントの標準化 区のイベントが多すぎる 【公民館活動の上手な使い方】 公民館活動 ・行事が年7回以上あり準備等時間が大 ・村主催の参加行事の選手選抜が大変 ・新規加入者へのアプローチがうまくいっていない 公民館が担うコミュニティの役割は大きい 公民館役員重要 いろいろな集まりが高齢化でなくなった	【運営】 区運営に必要な議決は総会しかないので、もう少し運営できる組織作りが必要。 箕輪町、伊那市の状況、他の区の状況も開示 【ライフスタイルに応じた自治会】 核家族に対応した自治会のあり方 自治会の意義や目的がよくわからない(やっている人もよくわかっていない) 個人の生き方や価値観の多様化 清掃作業者の不足(高齢化による)	【住環境】 住環境住む人の意識付け 先住、移住、年齢による意識の差(生活感、家族感等) 個々の環境、アンバランス
	検討補助委員 意見		【清掃活動について】 ・清掃活動などの開始時間が早い 朝の5時、6時からの活動が多く、早くて困っている 7時くらいにしてもらえると助かる ・ごみゼロ運動や河川清掃は本当に必要か？ 〈ごみゼロ運動〉 目立つごみはあまり無い。組全員が出席するほどの必要性を感じない。 〈河川清掃〉 事前の草刈りを行っているためか、当日はきれいな状態。半分ほど散歩になってしまっている。 ・役をやりながら、さらに区民全員参加の作業もあり負担に感じる		
解決案	ワークショップ	役職の定年制 今までの経験を役割として活かしてもらう 区長になると良いことがあるというPRができるといい 若い方がアイデアも馬力もある 免除の基準が難しい(高齢でも元気) 役員へ女性登用の推進 区役員の長期的育成及び公平な役割分担(負担)、制度の確立 区役員の選出は候補者のキャリアの開示が必要だと思うが個人情報のため難しい →村のサポートが要る 区、組が期待する役割を全うできない方々の受け皿 できる役割は残す 役員の仕事を明確に 役員をした後に感じる意義	【行事】 区に入らないと行けない行事、魅力ある行事をつくる 標準を村でつぐれないか？ 【公民館活動の上手な使い方】 新規加入者へのアプローチ → 村のサポ 公民館を上手に使う	【運営】 スピーディーな運営が必要 【ライフスタイルに応じた自治会】 作業量、仕事量を減らす。現役世代がやりたくなる仕組み 作業をかわりにする事務員 ◎「自治会を続けていくことが大事」	地元を知ることが大切 地区の散歩コース→地区の歴史、地区を知る
	検討補助委員 意見		今後、不必要な作業を少しでも減らしていくことで、「組に加入しても負担にならない」、「時代に合わせて内容も変化している」というイメージをつくっていけるのではないかな。		

		組織・区民関係			
		区外・組外対策	高齢者	組再編	加入金・区費
課題	ワークショップ	【区加入者減】 入区を希望する人が少ない ・役をやりたくない ・メール、LINEで入区のデメリットが流れている 自治会加入率が低い、低くなっていく ・メリットを感じない ・役をやりたくない ・区費が高い 新規移住者の急増による区未加入者（組未加入者）の増大 大きな区ほど誰が住んでいるかわからない 新規移住者とのつながりを培う場や機会が全くもてない 区、組に入る人が少なくなっている。防災、衛生といった日常のことに問題が起きる可能性がある 加入者と未加入者の間に生じる気持ち悪い違和感 未加入者対策 ・区、組への加入促進 ・アプローチ（コミュニティの存在意義の明確、周知） ・加入金が負担 ・高齢者の負担（例：定年制） ・区、組加入のメリット、デメリット 区に入るメリットを伝えられない 区、組に入るメリット、デメリットが新しい人にはわからないかも 加入した場合メリットがない（不公平感）	【区から出てしまう】 高齢化による退区者が増えてきている 組の高齢化に伴い、組の人数が減少。組の維持に苦労をしている 高齢者世帯の増加等に伴う賦役参加等が難しい世帯の増加（退組、退区。役員もできない） 入る人より出ていく人が多い 区内道路清掃等、高齢化で負担が大きい	組の人数にバラつきがある 人数の少ない組と多い組がでてきている 役員の頻度に対する不公平感 ・輪番制のため組構成員の人数差による不公平感 組の世帯数に差があり、役等不公平 区域によってのまとまりが異なる（広いため、新旧） アパート住民との連帯感が乏しい 組によるルール、しきたりの違い 区加入者の急増等による組構成件数の偏りの存在。隣組組織の再編への方向性が見えない 組編成 ・新規転入者の未加入 ・高齢化で退会者増 ・適正人員？ ・防災組織の核としての位置付が不明確 ・改編、組変えが難しい	区費の不公平感。二世帯住宅は一戸分、単身者も一戸分 区費の標準化 加入金はゼロにしたい。 【対価、インセンティブ】 ・事務員、役場窓口、議員 ・経済的不公平 ・経済的負担、公民館補修等区民に負担が高い ・区に加入していない人→負担なくていい ・あるべき姿がみえない！ ・集金（寄付金）
	検討補助委員 意見		【高齢者の係について】 ＜日赤奉仕団＞ 妻が要介護のため、自分が引き受けた ・炎天下の行進は高齢の身には厳しい ・炊き出し訓練は、妻の世話がありできない ＜公民館係＞ ・納涼祭 会場準備はできるが、以降は妻の世話がありできない ・敬老会 準備やお年寄りの接待を、後期高齢者の自分（敬老会に招待される側）がすることに複雑な思いあり 組の方々に役を免除してもらうのはばかられる 組から外れることも考えさせられる		
解決案	ワークショップ	加入率を上げる目標を定める 強気に加入する仕掛け 区に入らないデメリットを明確にする → ルールとして決める ↓ プラスの方向のやり方で加入者を増やす！若い人は検討してもらう 地域住民にとってどんなメリットがあるのか具体的に提示が必要 防災、防犯、衛生情報（メリット） 人のつながりを増やしている イベントによる交流活動 村のアナウンスを強化		少ない組を多い組が支援する 組は別で役割だけ合併する	組長会でも決めた（北殿） 沢尻、北殿、塩ノ井、大芝は加入金ゼロ
	検討補助委員 意見	【自治会に入るメリット・デメリット】 自治会に入るとどのようなメリットがあるか未加入世帯に呼びかける行動が必要 ・R5年度、若い世代から見た自治会に入るデメリットや意見が出なかった ・検討委員の議論も、ずっと地域に住んでいる検討委員かつ自治会員で行われてきた（高齢者ばかり） ↓ 若い世代はどのようなデメリットを感じているか？ 今年度は、南箕輪村に移住された方、30代、未加入の若い世代の意見を聞きたい ◎村の将来を担う若い世代の意見も尊重しながら双方で軟着陸するのがよい （メリット） ・イベントや係活動を通じて区民の皆さんとの関わりが増えた ・公民館係となり、区民の球技大会（ポッチャ）に参加 子ども・夫婦ともに楽しめ、また来年も参加したいと思えるイベントだった。 特にお子さんのいる家庭に、このようなイベントを通して地域の方との交流の大きさを体感してもらいたい。 【非加入者対策】 加入・非加入で差をつける 例）加入者のみに村商品券を配る 乳幼児のいる家庭におむつ券を配る など 何か加入しようと思えるきっかけを作るのも大事	【高齢者の係について】 村か区の規則で、係の免除対象者について規定すれば、組から脱会しなくとも現状維持が図られるのではないか		

		組織・区民関係	地域認識と防災		その他
		組内関係性の希薄化	防災計画・防犯	消防団組織	デジタル化
課題	ワークショップ	関係性の希薄化 ・行事の参加者が少ない ・行事を魅力ある行事へ ・若者の参画	【自主防災】 固定化。見えなくなっている。 自主防災会の維持 人の入れ替わりが少ない	消防団員不足	デジタル化が進んでいない。回覧、会議 → アナログからデジタルへ進んでいない。村からの助成が必要
	検討補助委員 意見				
解決案	ワークショップ	負担が少なくて交流できる場。防災、防犯、衛生情報(メリット)	防災、防犯、衛生情報(メリット)		同じシステム(会計)、会計用のパソコン オンライン(zoom)web上で回覧→中込 ↑ まずは意識調査
	検討補助委員 意見				

令和6年度 第2回 持続可能な自治会検討委員会会議 プログラム

作業プログラム	時間	プログラム内容
ワークショップ開会		2 グループ
① ワークショップの説明	5 分	本日のワークショップの内容について説明します。 第1回の成果を振り返ります。
② 自治会運営業務について考える	75 分	本日の持続可能な自治会検討委員会は、「自治会運営業務」について、第1回検討結果をもとに自治会運営の課題を整理し、課題解決方法を探ります。 ・ 役員の選出やなり手不足 ・ 行事、イベントの整理や活用 ・ 区行政の運営方法 ・ 住民の意識づけ について、各区で取り組んでいる解決方法を共有するとともに、課題解決のヒントとなる手法について話し合います。 ※課題やヒントについては、前回成果(資料2)を参考にして、グループ内で検討してください。
③ グループ発表	10 分	本日の成果について、グループごとに発表します。 5分以内で発表してください。
④ 閉会	計 90 分	

※このプログラムは進行に応じて変更することがあります

持続可能な自治会検討委員会会議 今後の検討内容（案）

【令和6年度 成果目標】

他団体依頼業務見直しに関する方針（案）の作成

自治会運営課題解決ガイドライン（案）の作成

【令和6年度 検討内容およびスケジュール案】

回	スケジュール	目的・テーマ案	検討内容
1	7月16日（火）	○ガイドラインの位置付けを共有する ○自治会運営の悩み事を洗い出す	◇ガイドラインの位置付けを共有 ・自治会運営の課題解決に関するヒント集 ◇自治会運営業務の悩み事を洗い出す ・区によって自治会運営の悩み事は様々。それぞれの区で抱えている悩み事を洗い出し共有する ◇発表（情報共有）
2	8月21日（水）	○自治会運営業務について考える	◇自治会運営業務の課題整理と解決方法検討 ・第1回検討結果をもとに自治会運営の課題を整理し、課題解決方法を探る 役員の選出やなり手不足、行事やイベントごとの整理や活用、区行政の運営方法、住民の意識づけ ◇発表（情報共有）
3	10月1日（火）	○自治会運営業務について考える（その2）	◇自治会運営業務の課題整理と解決方法検討 ・第1回検討結果をもとに自治会運営の課題を整理し、課題解決方法を探る 退区者（区、組）の削減、組の再編、区加入金・区費、地域コミュニティの希薄化、防災・防犯対策 ◇発表（情報共有） ※2回目～3回目の2回に分けて個別内容の検討
	8月～10月		自治会運営課題解決ガイドライン（たたき台）作成 他団体、担当各課、関係機関等との調整及び確認
4	11月26日（火）	○自治会運営業務について考える ○他団体依頼業務について考える	◇自治会運営課題解決ガイドライン（たたき台）の記載内容検討 ・加入者促進 ・退会の防止、抑制 ・役員引継ぎ（役員の作業内容の明確化） ・役員の負担軽減（集落支援員のサポート） ・次世代の担い手育成 ◇他団体依頼業務見直し内容の検討 ◇発表（情報共有）
	11月～1月		自治会運営課題解決ガイドライン（素案）作成 他団体依頼業務の見直しに関する方針（素案）作成 他団体、担当各課、関係機関との調整及び確認

回	スケジュール	目的・テーマ案	検討内容
5	1月21日（火）	○自治会運営業務ガイドラインを確認する ○他団体依頼業務方針を確認する	◇自治会運営課題解決ガイドライン（案）検討 ◇他団体依頼業務の見直しに関する方針（案）検討 ◇発表（情報共有）
	1月～3月		自治会運営課題解決ガイドライン作成 他団体依頼業務の見直しに関する方針作成

※会議は2時間程度を想定しています。

※検討委員会の開催日程、検討内容について、変更になる可能性があります。

※他団体依頼業務については、まずは検討内容について担当課へ調整依頼し方向性を探ります。その後、検討委員会で議論を行います。他団体依頼業務の検討経過については検討委員会で経過をご報告します。